

公益社団法人 日本水産学会  
平成 24 年度第 6 回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成 24 年 12 月 15 日(土) 13 時～17 時
- 2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学品川キャンパス  
白鷹館 2 階多目的スペース 1(東京都港区港南 4-5-7)
- 3 理事総数及び定足数  
総数 17 名、定足数 9 名
- 4 出席理事数 14 名  
(本人出席) 金子豊二、河原栄二郎、黒倉 壽、小谷祐一、桜井泰憲、佐藤秀一、鈴木伸洋、  
東海 正、古谷 研、松山倫也、鷺尾圭司、和田時夫、渡邊良朗、渡部終五  
(監事出席) 阿部宏喜、瀬川 進  
(幹事出席) 舞田正志、石崎松一郎、宮本佳則、高井則之、内田圭一  
(オブザーバー) 佐竹幹雄(理事候補者)、皆川 恵(理事候補者)
- 5 議 案  
決議事項 第 1 号議案 「平成 24 年度日本水産学会賞各賞受賞者の決定」の件  
第 2 号議案 「論文賞授賞規程一部改正」の件  
第 3 号議案 「刊行物発行の調達に係る契約に関する事務取扱規程」の件  
第 4 号議案 「会費免除申請」の件  
第 5 号議案 「入会承認取消」の件  
第 6 号議案 「Fisheries Science 79 巻における会員購読促進の継続」の件  
第 7 号議案 「平成 25 年度日本水産学会春季大会理事会主催シンポジウム」の件  
第 8 号議案 「『海とさかな』自由研究・作品コンクールへの対応」の件  
第 9 号議案 「平成 25 年度日本農学会評議員及び運営委員の選出」の件  
第 10 号議案 「共催、協賛、後援」の件  
第 11 号議案 「入会承認」の件  
第 12 号議案 「東日本大震災復興支援検討委員会における分科会の設置」の件  
報告事項 平成 25・26 年度学会賞選考委員会選挙結果  
資格喪失者(会費未納)の会費納入による退会者への変更について  
平成 24・25 年度支部幹事の変更について  
寄附金について  
平成 25 年度科学究費補助金(研究成果公開促進費)「国際情報発信強化」への申請について  
FS 誌特集記事掲載の進捗状況について  
水産学シリーズの終了について  
水産増養殖懇話会講演会を東京大学海洋アライアンスと共催する件について  
「津波被災地での防潮堤建設にあたっての自然環境への配慮に関する意見書」の提出について  
第 5 回理事会以降の職務執行の状況  
旧水研連加盟学会及び関連学会会長懇談会について  
予算の基本方針について

決算処理の日程について  
平成 26 年度春季大会の日程について  
その他

## 6 議事の経過及びその結果

### (1) 定足数の確認等

冒頭で佐藤(秀)総務担当理事が定足数の充足を確認し、続いて、同理事から本会議の議事進行について説明があった。

### (2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、渡部会長が議長となり、本会議の成立を宣言し、議案の審議に移った。

#### (決議事項)

#### 第 1 号議案 「平成 24 年度日本水産学会賞各賞受賞者の決定」の件

渡邊学会賞担当理事から、平成 24 年度日本水産学会賞各賞受賞者の決定の件について原案の説明があった。

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

#### 日本水産学会賞

原 彰彦 「魚類の卵形成タンパク質に関する免疫生化学的研究」

#### 日本水産学会功績賞

青木 一郎 「水産資源の変動機構解明と評価・予測に関する研究」

松里 壽彦 「水産養殖技術、特に病害防除に関する技術の開発」

#### 水産学進歩賞

荒川 修 「フグ類が保有する毒の分布、蓄積機構、および生理機能に関する研究」

井上 広滋 「魚類の生態を支える生理機能に関する分子生物学的研究」

小島 隆人 「魚類の心電図導出技術を用いた聴覚感受性などの評価に関する研究」

齋藤 洋昭 「水産物中の脂質成分の分布・動態の解明とその応用に関する研究」

#### 水産学奨励賞

大久保範聡 「魚類の脳の性成熟機構に関する研究」

田中 庸介 「海産多産性魚類の初期生残機構の解明とその増養殖への応用に関する研究」

長阪 玲子 「魚類代謝制御経路の解明と養殖魚品質向上への適用に関する研究」

長谷川 功 「外来サケ科魚類の侵入に関わる生態学研究」

畑瀬 英男 「ウミガメ類の回遊生態と生活史に関する研究」

#### 水産学技術賞

宍道 弘敏 「鹿児島湾マダイ資源の増殖管理技術の開発」

高木 力 「網漁具の動力学モデルとその数値シミュレーション」

山野 恵祐, 萩原 篤志, 吉国 通庸 「生理活性ペプチド(クビフリン)を用いたマナマコ採卵技術の開発」

なお、本議案について以下の質疑があった。

渡部会長 「推薦件数が少なかったことについてどのような議論があったのか。」

渡邊理事 「件数の少なさについては特に委員会で議論されていない。」

- 渡部会長 「各理事の見識に基づいて候補者の推薦を是非積極的に行ってほしい。」
- 第2号議案 「論文賞授賞規程一部改正」の件(別紙1)  
古谷編集担当理事から同議案について原案の説明があった。  
審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。
- 第3号議案 「刊行物発行の調達に係る契約に関する事務取扱規程」の件(別紙2)  
東海総務担当理事から、同議案について原案の説明があった。  
審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。
- 第4号議案 「会費免除申請」の件  
佐藤(秀)総務担当理事から、沖山宗雄、西山恒夫、廣瀬慶二、松田 皎各会員の会員に関する規則第5条(1)に基づく会費免除申請について説明があった。  
審議の結果、出席理事全員一致で申請のあった4名の会費を平成25年度から免除することを可決した。
- 第5号議案 「入会承認取消」の件  
佐藤(秀)総務担当理事から、同議案について、平成24年9月14日の本理事会で入会が承認された学生会員1名から入会承認の取消を求める申請がなされた旨説明があった。  
本議案について以下の質疑があった。  
東海理事 「学生会員の場合は通常指導教員の承諾がないと入会できないことになっている。指導教員の承諾はどのようになっていたのか。」  
佐藤(秀)理事 「入会申込書には指導教員名を記載する欄はあるが、必ずしも指導教員の承諾を必要とする体裁にはなっていないため、指導教員の承諾なしでも入会を申し込むことができる。」  
渡部会長 「入会申込書のスタイルを指導教員の承諾を得るような形に修正してはどうか。」  
黒倉理事 「今回は極端にレアなケースであると思われるので、あえて変える必要はないのではないか。」  
東海理事 「会員の入会は理事会の承認事項なので、同様の事態が発生しないような対策をとるべきではないか。」  
審議の結果、出席理事全員一致で申請のあった学生会員の入会承認を取り消すことを可決した。なお、今後同様の事態が発生しないように学生会員の入会申請にあたっては指導教員の承諾を得るような形式に修正することが決議された。
- 第6号議案 「Fisheries Science 79巻における会員購読促進の継続」の件  
佐藤(秀)総務担当理事から、会員の会誌購読促進のために現在行われているFisheries Science 誌の先着割引での配本をFisheries Science 79巻においても継続して行いたいとの説明があった。  
本議案について以下の質疑があった。  
渡部会長 「Fisheries Science 78巻の配本申込者は何名であったか。」  
佐藤(秀)理事 「30人程度である。」  
審議の結果、出席理事全員一致でこれを可決した。なお、配本は先着50名に変更することとした。
- 第7号議案 「平成25年度日本水産学会春季大会理事会主催シンポジウム」の件  
和田将来計画担当理事から、東日本大震災災害復興支援検討委員会で検討された

平成 25 年度日本水産学会春季大会における理事会主催シンポジウムについて、平成 25 年 3 月 30 日(土)に二部構成で開催する計画である旨説明があった。

本議案について以下の質疑があった。

渡邊理事 「シンポジウム企画委員会で予定しているシンポジウム 4 件はすべて 3 月 30 日に開催されることになっている。理事会主催のシンポジウムを含めると 3 月 30 日に 5 件のシンポジウムを開催することになるが、集中し過ぎではないか。」

渡部会長 「すでにアメリカ水産学会との打ち合わせで 30 日を設定していることから理事会主催のシンポジウムの日程を変更することはできないと思われる。」

和田理事 「30 日にシンポジウムが集中することに関しては、他のシンポジウムの中で 26 日に変更が可能なものがないかどうか問い合わせたが、各大学の卒業式の日程と重なることから変更できないとの回答がきている。したがって、30 日に開催せざるをえないと考える。」

松山理事 「シンポジウムの内容はどのような形で公表するのか。」

和田理事 「日本水産学会誌のシンポジウム記録に掲載することを考えている。」

桜井理事 「使用言語はどのようなのか。」

和田理事 「第 1 部は英語で第 2 部は日本語で行う予定である。」

審議の結果、出席理事全員一致で計画通り理事会主催シンポジウムを開催することを決議した。

#### 第 8 号議案 「『海とさかな』自由研究・作品コンクールへの対応」の件

東海総務担当理事から、『海とさかな』のコンクールに対する次年度の協力体制に関して、依頼元である朝日学生新聞社及び日本水産(株)と協議した結果、次年度は本会も後援となり、日本水産学会会長賞を授与すること、それに伴い審査委員及び運営委員を出す必要があること、出張講義は現状の 5 件ないしは若干数を増やした程度で実施することとし、体験学習ツアーは実施しないことが説明された。なお、出張講義の経費(旅費、謝金)及び受賞者などに配布するノベルティグッズを予算化する必要があるとの説明があった。

本議案に関して、次の意見及び質疑応答があった。

鷲尾理事 「次年度に向けた予算化ということか。主催者側に経費の一部負担をお願いすることはできないのか。」

東海理事 「今年度も若干の経費がかかったものの、大部分はボランティアで実施していただいた。次年度は学会としても出張講義の経費を予算化しておく必要がある。なお、主催者側からの経費負担は見込めない。」

渡部会長 「審査委員及び運営委員は水産教育担当が妥当ではないか。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り事業を実施すること、本事業にかかる予算を平成 25 年度予算に計上することを決議した。なお、本事業の担当は水産教育推進委員会が担当することが併せて決議された。

#### 第 9 号議案 「平成 25 年度日本農学会評議員及び運営委員の選出」の件

佐藤(秀)総務担当理事から、平成 25 年度日本農学会評議員及び運営委員の選出について原案の説明があった。

審議の結果、出席理事全員一致で以下の通り可決した。

評議員 黒倉 壽、佐藤秀一 運営委員 濱田奈保子、木下滋晴

#### 第 10 号議案 「共催、協賛、後援」の件

佐藤(秀)総務担当理事から、共催希望2件、協賛希望2件及び後援希望1件について説明があり、審議の結果、出席理事全員一致で以下の共催、協賛及び後援を決議した。

共催： 災害復興ワークショップ in 仙台

主催 応用生態工学会、日本生態学会

共催 日本景観生態学会 他1学会(予定)

後援 国土交通省 他5団体(予定)

日程 平成25年1月16日(水)

場所 仙台市青年文化センター(宮城県仙台市)

負担金 なし

第50回アイソトープ・放射線研究会発表会

主催 日本アイソトープ協会

共催 応用物理学会 他60学協会

日程 平成25年7月3日(水)～5日(金)

場所 東京大学農学部弥生講堂(東京都文京区)

負担金 なし

協賛： 2012年第5回生態工学定例シンポジウム「未来を拓く新エネルギー、その現状と課題」

主催 生態工学会

協賛 照明学会 他11学協会

日程 平成24年11月16日(金)

場所 東京大学農学部中島董一郎記念ホール(東京都文京区)

負担金 なし

第15回マリンバイオテクノロジー学会大会

主催 マリンバイオテクノロジー学会

協賛 日本農芸化学会 他27学協会

日程 平成25年6月1日(土)・2日(日)

場所 沖縄県市町村自治会館(沖縄県那覇市)

負担金 なし

後援： 農学会・日本農学アカデミー共同主催シンポジウム「放射能汚染の不安に答える -水産物はどこまで安全か-」

主催 農学会、日本農学アカデミー

後援 東京大学大学院農学生命科学研究科、日本学術会議水産学分科会

協賛 (株)恒星社厚生閣、(株)ワールド・ウォッチ・ジャパン

日程 平成25年2月24日(日)

場所 東京大学農学部弥生講堂

負担金 なし

第11号議案「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

第12号議案「東日本大震災復興支援検討委員会における分科会の設置」の件

和田将来計画担当理事から、東日本大震災復興支援検討委員会の検討結果を実行に移すための分科会(調査研究分科会、科学リテラシー/コミュニケーション分科会)

会)を新たに設置したい旨説明があった。

本議案に関して、次の意見があった。

渡部会長 「分科会の設置に関しては、委員長と担当理事を中心に幹事を選任することになるが、将来を担う若手の幹事の選出を検討してほしい。」

審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり分科会を設置することを決議した。

#### (報告事項)

平成 25・26 年度学会賞選考委員会選挙結果

佐藤総務担当理事から平成 25・26 年度学会賞選考委員会委員の選挙結果が以下の通り報告された。

A:水圏生産科学 A(4名) 今井一郎、江口 充、山本民次、荒井修亮(次点:大嶋雄治)

B:水圏生産科学 B(4名) 良永知義、東海 正、佐藤秀一、黒倉 壽(次点:太田博巳)

C:水圏生命科学 C(4名) 金子豊二、潮 秀樹、左子芳彦、岡崎恵美子(次点:平田孝)

D:分野なし(3名) 松山倫也、嵯峨直恆、鷺尾圭司(次点:深見公雄)

資格喪失者(会費未納)の会費納入による退会者への変更について

佐藤(秀)総務担当理事から、LEE, KYUNGMI氏(正会員、平成 23 年度資格喪失)及び内匠正太氏(正会員、平成 23 年度資格喪失)の 2 名が会費納入により退会者に変更されたことが報告された。

平成 24・25 年度支部幹事の変更について

佐藤(秀)総務担当理事から、所属支部の変更にもない中部支部の支部幹事を原素之会員から広石伸互会員に、井口恵一朗会員から大泉 徹会員に変更することが報告された。

寄附金について

金子財務担当理事から、東海 正会員より 10,000 円(平成 24 年 9 月 18 日付)、塚本勝巳会員より 224,000 円(平成 24 年 12 月 4 日付)、吉水 守会員より 100,000 円(平成 24 年 12 月 7 日付)の寄附金を受け入れたことが報告された。

平成 25 年度科学究費補助金(研究成果公開促進費)「国際情報発信強化」への申請について

古谷編集担当理事から、平成 25 年度科学究費補助金(研究成果公開促進費)「国際情報発信強化」に申請した旨の報告があった。

FS 誌特集記事掲載の進捗状況について

古谷編集担当理事から、FS 誌特集記事掲載の進捗状況が報告された。

水産学シリーズの終了について

金子出版担当理事から恒星社厚生閣と協議した結果、190 号をもって水産学シリーズを終了することが報告された。

本報告に関して、次の意見があった。

東海理事 「水産学シリーズという形ではなく、単行本化することでの対応は可能なのか。」

金子理事 「今のシンポジウムの内容を掲載する形では現実的には対応できないと思われる。」

黒倉理事 「水産に限らず、本自体が売れなくなっているのではないか。買い取りとい

う方法はとれないのか。」

東海理事 「買い取りは不可能であろう。」

松山理事 「経費削減の方策を考えて継続すべきである。」

東海理事 「すでにオンデマンド化を実施しているので、これ以上の経費削減は難しいのではないか。」

瀬川監事 「本として完成度が高いので出版社以外で組み版を行うのは無理であろう。」

渡部会長 「出版社側の考えを明確にしてから再度検討すべきであろう。」

水産増養殖懇話会講演会を東京大学海洋アライアンスと共催する件について

佐藤(秀)水産増殖担当理事から、平成 25 年 2 月 9 日に開催予定の平成 24 年度第二回水産増養殖懇話会講演会を東京大学海洋アライアンスと共催する旨の報告があった。

「津波被災地での防潮堤建設にあたっての自然環境への配慮に関する意見書」の提出について

鷺尾水圏環境担当理事から、津波被災地での防潮堤建設にあたっての自然環境への配慮に関する意見書を水産環境保全委員会が日本生態学会及び植生学会と連名で東北 3 県の知事に提出したことが報告された。

本報告に関して、次の意見があった。

渡部会長 「本件は、水産環境保全委員会として行うとのことである。」

黒倉理事 「学会として防潮堤反対と明言することは必ずしも適切ではないと判断されたことと、環境保全委員会に対応すべきとの経緯があった。」

第 5 回理事会以降の職務執行の状況

・水産技術誌関連

和田担当理事から水産技術誌について、水産技術第 5 巻 2 号の刊行は 2 月になり、原著論文 6 編、短報 4 編(分野別では増養殖 3 編、資源 1 編、漁業・環境 2 編、水産工学 2 編、利用・加工 2 編)が掲載されるとの報告があった。

・科研費細目再編関連

桜井担当理事から現在科研費細目再編・統合に関わる検討委員会の準備を行っている旨の説明があった。

・国際交流関連

古谷担当理事から 11 月に河南省で開催された中国水産学会及び韓国で開催された日韓合同シンポジウムに渡部会長が出席した旨の報告があった。なお、3 月に開催される平成 25 年度日本水産学会春季大会への出席要請を両学会長に行ったことが報告された。

・シンポジウム企画委員会関連

渡邊担当理事から来春の大会では、シンポジウム 2 件、ミニシンポジウム 2 件、来秋の大会ではシンポジウム 1 件、ミニシンポジウム 3 件が開催予定であることが報告された。

・漁業懇話会関連

渡邊担当理事から漁業懇話会から活動経費を 10 万円程度増額したいこと及び新年度の予算執行を 3 月から行いたいとの要望があることが報告された。これに対し、経費の増額は認められないが新年度の予算の執行は 3 月から可能であるとの回答をしたとの報告があった。

・水産教育関連

黒倉担当理事から、水産学教育推進委員会のあり方について新たに検討する時期にき

ているとの認識があり、今後議論することになっていることが報告された。

・水産政策関連

黒倉担当理事から水産政策委員会として現在放射線問題に対する意見の取りまとめを行っている旨の報告があった。

・ベルソーブックス関連

東海担当理事から、ベルソーブックスの企画を現在検討している旨の報告があった。

・企画広報関連

東海担当理事から日本水産学会誌における巻頭言の取扱いについて説明があり、次年度1号には渡部会長の巻頭言が掲載されることが報告された。

・支部関連

小谷担当理事(東北支部担当)から、平成24年11月に開催された支部大会の概要が報告された。

黒倉担当理事(関東支部担当)から、来春の平成25年度春季大会実行委員会で準備を行っている旨報告があった。

鈴木担当理事(中部支部担当)から、平成24年12月8日に支部大会及び幹事会が開催されたことが報告された。

河原担当理事(中国・四国支部担当)から、平成24年12月1日に開催された例会について報告があった。

松山担当理事(九州支部担当)から、平成24年9月29日に開催された支部例会及び平成25年1月26日に開催予定の支部総会及び大会について報告があった。

旧水研連加盟学会及び関連学会会長懇談会について

東海理事から平成24年10月24日に開催された旧水研連加盟学会及び関連学会会長懇談会の内容について説明があった。

予算の基本方針について

渡部会長から、次年度の予算案の作成にあたっては、財務担当理事が立案した予算編成方針に基づき、平成25年2月の理事会で財務担当理事が作成した原案を審議するとの報告があった。

決算処理の日程について

東海理事から平成24年度の決算処理の日程について説明があった。本日程に沿って各支部、懇話会及び委員会は対処してほしいとの依頼があった。

平成26年度春季大会の日程について

桜井理事から、年度末の諸事情を考慮して平成26年度春季大会を平成26年3月27日(木)から31日(月)に変更することを現在検討している旨報告があった。

本件に関して、次の意見があった。

和田理事「企業や各都道府県の試験研究機関の研究者にとっては31日の大会参加は難しい。これとは直接関係はないが、抜本的なこととして現場の若手研究者が大会に参加するのは非常に厳しい現状があり、有休を取って私費で参加しているケースが見られる。学会としてはこれらの研究者をどのようにサポートすることができるか今後考える必要があると思われる。」

桜井理事「同感である。」

渡部会長「若手研究者の育成について学会として真剣に考えてはどうか。」

その他

・学会ノベルティグッズについて

佐藤(秀)総務担当理事より、学会事務局で扇子と爪きりを新たに購入したので、外国からの来客、支部長賞の副賞などにノベルティグッズを活用していただきたいとの報告があった。

・マリンイノベーション戦略拠点の形成について

渡部会長から学術研究領域としてマリンイノベーション戦略拠点の形成を現在提案していることが報告された。

・若手の会の活動状況について

渡部会長から、日本学術会議から若手の会の活動状況に関するアンケートがきており、その対応を含め若手の会を再度立ち上げる必要があるとの報告があった。

・座談会の開催について

小谷東北支部担当理事から、東北支部が中心となって震災関連の座談会を開催することを検討していることが紹介された。

・賛助会員の退会について

渡部会長から賛助会員4件の退会希望があることが報告された。今後賛助会員及び団体会員の退会希望が増加する可能性が考えられるので、新規に開拓していく必要があることが確認された。

・次回理事会の開催について

渡部会長より、次回第7回理事会は平成25年2月2日(土)13時から、国立大学法人東京海洋大学で開催する予定である旨確認があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、17時、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長(代表理事)及び監事は記名押印する。

平成24年12月15日

公益社団法人 日本水産学会

議長 会長(代表理事)

監 事

監 事